

目指す学校像	校是「風雪に耐えてこそ巨木の年輪ハ刻まれる」 常に明るくのびのびと学習を続け、高い理想と強い向上意欲に燃える豊かな心情と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態を把握し、個別指導を取り入れながら、学習意欲の喚起、職業観の育成を図ってきた。今後、社会生活に必要なスキルや対人関係力等の指導も一層充実させていく。 様々な機会を捉えて規範意識の高揚を目指すと共に、道徳授業を通して「心の教育」の一層の充実を図る。 「南高スピリットアップ事業」「キャンパスエイド事業」等の事業を活用し、学校行事をはじめとする学校生活への積極的参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲を充実させ、わかる楽しさを実感できる授業を目指す。 学習習慣を身につけ、基礎学力の定着を目指す。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 職業選択の意識の高揚と望ましい勤労観・職業観の育成 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア・カウンセリングの機会の確保に努め、キャリア教育を推進する。 進路ガイダンスを活用し、適切な進路指導を行う。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 心の居場所としての学校づくり キャンパスエイド事業実施体制の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全体を通して、挨拶・規律の遵守、学校生活適応の指導に努め、基本的な生活習慣や社会性の向上を目指す。 種々の事業を活用し、多様な生徒に対するカウンセリング支援を進める。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな心の育成と規範意識の確立 道徳教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる機会をとらえ、「こころの教育」を進める。 学校の教育活動全体を通じ、道徳教育の充実を図る。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、部活動への積極的・意欲的な参加 	<ul style="list-style-type: none"> 南祭（文化祭）や生徒会行事、クラスマッチ、生活体験発表等の学校行事を通して主体的に行動できる態度を養う。 部活動の活性化を図り、定通体育大会への積極的な参加を促す。 	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎学力の確実な定着を図り、主体的な授業態度を確立する。	授業内容の充実を図るとともに、生徒が「わかる」楽しさを実感できる授業展開を目指す。	A	発達障害など個に応じた指導の更なる充実を目指す。学習意欲を引き出す教材や指導方法の一層の工夫が必要。
		基本的な学習態度や個性を伸ばし、主体的に学ぶ姿勢を育成する。	B	
教 科	国 語	生徒の学習意欲を引き出すために、教材・学習方法を工夫するなどして、積極的な授業への参加を促す。指導方法の改善を進め、授業規律の確立を目指す。	B	<ul style="list-style-type: none"> 国語に親しむ態度を育て、学習意欲の更なる向上を図る。 言語感覚を磨き、適切で効果的に表現する能力を育成する。
		基礎・基本の定着を図る。	A	
		生徒の現状を理解し、必要があれば中学レベルに立ち返って学力を補う指導をする。	A	
		プリントを活用して確認するなど、小さな目標を設定しながら、自ら学ぶ姿勢を養う。	A	
		生徒の能力・適性、興味・関心に応じた指導の工夫に努める。	A	
		習熟度別にクラスを編成し、生徒の能力や適性に応じた指導を行う。	A	
	地 歴	評価の工夫・改善に努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> 資料活用の充実さらに努める。
		地域の類似性・相違性を判断する力を培う。	A	
		歴史上の時代のつながりに配慮し、地域のつながり時代性を見る力を養う	B	
	公 民	政治や経済のしくみを理解させ判断力を育成する	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容と生徒の身近な出来事に関連付ける。
		人間としての在り方・生き方を考える態度を育てる。	B	
		先人達の人生における様々な課題を、机上での知識の修得に終わらせることのないように、現在の自分自身の在り方・生き方に照らし合わせ、考えさせる。	B	
数 学	基礎学力の向上を図る。	地図帳、写真、統計などの資料に興味を持たせ、地理的事象を把握する力を育てる。	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価や定期テストの問題を工夫する。
		視聴覚教材や情報通信ネットワークなどの有効活用を目指す。	A	
		副教材を資料として活用しうる能力の育成に努める。	B	
		新聞、写真、統計などの資料に興味を持たせるように努める。	B	
	時代差の比較、地域の比較にも目を向けられるように図る。	B		
数学への興味・関心を高める。	教科書の内容にとどまらず、新聞記事などを活用し、現実の問題を考察する。	B	<ul style="list-style-type: none"> 評価や定期テストの問題を工夫する。 	
視聴覚教材や情報通信ネットワークなどの有効活用を目指す。	B			
先人達の人生における様々な課題を、机上での知識の修得に終わらせることのないように、現在の自分自身の在り方・生き方に照らし合わせ、考えさせる。	B			
習熟度別にクラスを編成し、生徒の学力レベルの差異に対応した授業を行う。	A			
小テストを実施するなど生徒の現状理解に努め、わかりやすい授業を行う。	A			
課外授業の充実を図り、数学を要する進学希望者の実力錬成に努める。	B			
学力不振者の実態を把握し、必要に応じて個別に指導する。定期テスト問題や評価の工夫。	B			
数学を必要とする者、数学に興味関心のある者に対して積極的に個別指導を行う。	B			
作業学習的要素を取り入れたたり、数学的で面白い話題を適宜紹介するなど、授業の工夫に努める。	A			

教 科	理 科	基礎学力の向上を図る。	生徒の能力に応じた指導内容を精選する。	B	B	・基礎学力の向上に一層力を入れる
			ノート点検や小テスト等により、理解度・定着度を把握する。	B		
		不得手生徒への特別指導を充実させる。	C			
	理科に対する興味・関心を高める。	実験、観察等の充実をはかり、視聴覚教材の活用を進める。	C			
	保 健 体 育	基礎体力の向上に意欲的に取り組む。(体育)	スポーツの楽しさを実感し、一段階上の技術習得のために基礎体力の必要性を感じさせる。また、チームスポーツを取り入れて楽しく活動することにより、生徒間のコミュニケーションをとれるように指導し、個人での活動にも重きを置く。	A	A	・生徒がより活動しやすい授業の工夫。 ・自分や周りの人の健康を生涯気遣っていける態度の工夫。
		健康問題を身近な問題とし、行動できる力を身につける。(保健)	健康は人間の生活活動全ての土台となるものであることを理解させる。特に生活習慣病や環境問題を身近なこととして認識し、さらに視聴覚教材等を利用し自分にできることを実践していく力を身に付けられるよう指導する。	B		
	芸 術	基礎・基本を身に付けさせることによって概念領域の拡張と理解の深化を図る。	レイコフ&ジョンソンが提唱した概念メタファーの考え方にに基づき、実習などの具体的な経験を通して向上した認知技能によって確立された芸術に関する概念領域を用いて他の概念領域の理解を目指す。	B	B	・近年生徒の積極性が低下している印象を受ける。肯定的に評価することを意識的な行い。表現に対する意欲を引き出す必要がある。
		授業計画の適性化を図る。	課題内容に対する理解を深めさせ、効率的に作品が制作できるように指示方法を工夫する。発達段階に応じた課題を設定し、獲得した技能が次の課題の必須技能となるような構造を持ったカリキュラムを維持する。	B		
		表現に対する意欲を引き出す。	技能向上や作品完成の喜びを感じさせる。。さらに適切に評価することで自信をつけさせ、表現に対する意欲を引き出す。	B		
		学習環境の充実に努める	施設、教材・教具の充実と開発、教室のレイアウトの最適化に努め、授業効率を高める。	B		
	英 語	基礎学力の向上を図る。	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱで習熟度別授業を展開し、能力に応じた学力の伸長を図る。	B	B	・Can-Doリストを用いた指導と評価
			小テスト等を実施し、理解度をチェックしながら、個々の生徒に応じた指導を行う。	C		
			言語活動を通し、反復による習熟を目指す。	B		
		英語に対する興味・関心を高める。	A L Tと協力して、英語を学ぶ楽しさを実感させる。 英検受験やスピーチコンテストへの参加を積極的に勧める。	B		
	家 庭	実験・実習を充実させ、生活的自立に向けて基礎学力の向上を図る。	実験、実習、演習を中心とした体験的・課題解決的な学習を取り入れ、工夫・改善を図る。 生徒の興味・関心を配慮した授業を工夫する。	B	B	・生徒の実態に即した分かる授業の展開、教材の活用、体験的・課題解決的な学習を増やすなど継続的に工夫を図る。
			基礎的・基本的な知識・技術を理解させ、実践的な能力態度を身に付けさせる。	B		
			製作実習では、完成までのプロセスを重視し、きめ細かな指導を行い達成感を持たせる。	A		
			普通教科(家庭総合)の修得率を引き上げる。専門教科における技術検定試験の合格率を引き上げる。	A		
		学習環境の整備と安全教育に努める。	施設、設備の効果的な活用を図り、実験実習における安全、衛生事故防止等の徹底を図る。	A		
	商 業	ビジネス教育に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得の向上を図る。	基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着を図る。 進度表を作成し、学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは個別に指導する。	A	B	・身に付けた基礎的・基本的な知識・技術を活用する力の育成。
		授業の内容などを身近な時事問題などと関連付けて考察するように工夫する。	B			
		卒業後も生かせる知識・技術の習得、考えをまとめるなどの知識・技術の活用を図る。	A			
		卒業者も生かせる知識・技術の習得、考えをまとめるなどの知識・技術の活用を図る。	B			
情 報 報	ネットワークの存在を意識し、どこでも、ネットワーク、端末、コンテンツ等を利用できる知識・技術の習得の向上を図る。	基礎的・基本的な知識・技術の確実な定着を図る。 情報の整理や積み上げによって論理的に分析・解決する態度を身に付けさせる。	A	B	・情報モラルに係る知識を日常場面に活用する力の育成。	
		ネットワーク上のコミュニケーションにおける情報モラルに関する指導を推進する。	B			
			B			

教 務	行事運営の工夫に努める。	各部との連絡調整のもと、行事・日程等の能率的運営を図る。	A	B	・新しく導入した支援システムが円滑に活用する。
	教育課程の工夫に努める。	新教育課程に対応した教育課程の編成をしていく。	B		
		履修指導の充実と生徒にわかりやすく活用しやすいシラバスの工夫改善を図る。	B		
	教育活動の円滑な推進を図る。	学校外の学修による単位認定等、単位制高校の特色を生かした教育活動の工夫改善を進める。	B		
		校内諸規定を整備する。	B		
奨学金制度の周知に努める。		B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立に努める。	定期的な立哨指導を通して、挨拶の励行、履物の区別、遅刻防止を呼びかける。LHRや学年集会、広報紙等を利用して、授業態度、言葉づかい、礼儀作法等を指導する。	B	B	・継続して基本的な生活習慣の確立に努める。 ・SNSやインターネットのトラブルに関連した事例等を共有する。 ・特別に支援を必要とする生徒への支援の一層の充実を図る。
規律ある、安全、安心な学校生活の推進に努める。	全職員で定期的に校舎内外を巡回する。	A			
不登校生徒への対策を充実させる。	集会や講演会等を利用して、交通安全、薬物乱用防止、情報機器の安全な利用とマナー向上を訴える。	A			
	日々の声かけにより、思いやりの心を育てる。	B			
本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	教育相談係との情報交換を密にし、個人に対してきめ細かい指導をする。	B			
進路指導	望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。	生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。	B	A	・進学準備の時期を早める。 ・就職希望者への継続的な指導を充実させ、同時に保護者に就職の現状を理解してもらう。
	進学指導の充実を図る。	進路ガイダンスを実施し、生徒各自の進路に対する意識の高揚を図る。	B		
		面談・履修指導・適性検査等を通して自己の適性に合ったキャリア教育ができるようにする。	A		
	就職指導の充実を図る。	進路に関する資料の充実を努め、生徒の進路研究および教師の進路指導に役立てる。	B		
		大学等進学希望者に対し、進学先に応じたきめ細かな指導を行う。	A		
就職希望者に対しては、個々の生徒に求人票等を紹介し個別指導の徹底を図る。	就職希望者に対しては、個々の生徒に求人票等を紹介し個別指導の徹底を図る。	A			
学習指導	学習意欲の向上と確かな学力の定着。	進学課外・基礎力充実課外・教科別受験指導を実施し、個々に応じた学習指導をする。	B	B	・課外の継続的な実施と受講者の増加 ・視聴覚室、放送機器の使用法の周知徹底と機器の更新 ・書類不備の減少の努める(教科書関係) ・図書館のPRに努め来館者を増やす。環境整備を進める。
	視聴覚教育の充実。	視聴覚室及び視聴覚教材等を整備し、その活用を促す。	B		
	図書館の充実と利用の促進	図書館内の美化や図書の配置を見直し、利用しやすい環境を整える。	B		
		図書資料・情報の提供に努め、授業等で利用できる資料の整備を図る。	C		
特別活動	生徒会活動の一層の活性化を図る。	委員会活動の活性化を図る。	A	A	・引き続き生徒が活動する場を多く設定し、取り組みやすくなるように指導する。
	生徒の自主性を育む行事の運営に努める。	行事を通して、生徒の自発的な活動を支援し、意欲と行動力を高める。	A		
		各種大会、発表会への参加を奨励する。	A		
		生徒が取り組みやすい内容を検討する。	A		
保 健	安全教育の実施	学校環境の安全点検を定期的に行い、安全管理に努める。	A	A	・安全点検を行うためのチェックリストを作成し保管する。トイレの破損箇所、窓の開閉の困難な箇所、吐瀉物、等を発見した場合には迅速に対応する。
	環境美化の定着を図る。	整備委員会を中心にクリーン作戦を充実させ、生徒の美化意識を高める。	B		
	心身の健康増進を図る。	健康診断の受診率向上を目指す。また、健診を通して、自主的な健康の保持増進を図る。	A		
		常に生徒の心身の健康状態を把握し、早期に問題の解決に当たる。	B		
	健康・安全に対する知識や技能の向上を図る。	避難訓練や心肺蘇生法講習会を実施し、安全に対する知識と技能の向上につとめる。性についての正しい知識を習得し、望ましい男女交際の啓発に努める。	A		

渉外	各種行事への会員の関心と参加率を高め、家庭との連携を密にする。	学校行事への積極的参加を会員に継続して呼びかける。	B	B	・役員・委員の要望を事業に反映させることで自主性を引き出す。
		役員・委員の自主性を引き出し、各会の主体的な運営を促す。	B		
		会員の要望を反映した行事を計画する。	B		
		広報紙やインターネットを利用して効率的に会員相互の理解と問題の共有を図る。	B		
教育相談	適応支援教室の充実に努める。 専門機関等との連携。	適応支援教室をさらに充実させ、学校生活不適應の生徒に対して、心の休まる場所とする。また、教育相談員との連絡を密にし、教職員と連携を深め、指導充実を図る。	B	A	・適応支援教室・キャンパスエイドについては活用した生徒に効果が認められた。 ・南高の実態に即した組織的な対応に課題があり、一層の改善が求められている。
		S・Cを交えての事例研究を行う。S・Cと担任との連携を深める。	A		

第1年次	高校生としての自覚を促し、基本的な生活習慣の確立を目指す。 多様な課題を抱えた生徒に適切に対応する。 基礎学力の向上に努める。	オリエンテーションを実施し、学校のしくみを理解させ学校生活での自己管理を促す。	A	B	・中だるみの2年生にならないように、進路を見据え個人の課題を明確にする。 ・2年次になるとHRで集まる機会が減るので、LHR及びSHRの時間を大切にして指導の充実を図る。
		挨拶を励行し、コミュニケーション能力の育成を図る。	B		
		機会あるごとに声をかけ生徒の状況把握に努め、きめ細かな指導を行う。	A		
		養護教諭、教育相談係、スクールカウンセラーと協力して、生徒実態の理解に努める。	A		
		家庭との連絡を密にし生徒情報の掌握に努めるとともに、学校生活の様子などを知らせる。	A		
第2年次	基本的な学校生活習慣の確立に努める。 基礎学力の向上に努める。 進路意識の向上を図る。	出席状況の把握に努め、本人や家庭との連絡を密にする。	B	B	・次年度は卒業学年となるので、進路意識のさらなる向上と合格のための指導を充実させたい。
		生徒面談を実施し、生徒状況の掌握に努める。	B		
		生徒の学力の実態を把握し、基礎学力の向上に努める。	B		
		基礎学力テストを実施したり、各種検定試験の受験を勧める。	B		
		進路ガイダンスや進路適性検査を行い進路意識の向上を図る。	B		
第3年次	主体的な学習態度の育成に努める。 進路希望の実現を図る。 自律的な生活態度の確立に努める。 協調性の育成に努める。	卒業を目指し、日常の授業を大切にして確実に単位を修得するように促す。	A	A	・学年団の組織的かつ早期の対応が生徒指導や進路指導において効果的であった。 ・折に触れて面談を重ねたことが、生徒の卒業や進路決定に大きな改善をもたらす結果に繋がった。
		授業への出席状況を掌握し、生徒及び保護者との連絡を密にする。	A		
		進路ガイダンス・オープンキャンパス等の積極的参加を促す。	A		
		生徒面談で生徒それぞれの進路希望を把握し、機を逃さず適切な指導に努める。	A		
		卒業後を見据え、あらゆる機会を利用しマナーを守り常識ある態度の育成に努める。	B		
		学校行事への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力および協調性の育成に努める。	A		

※ 評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない